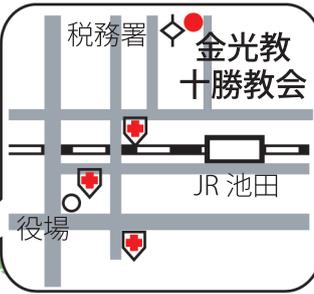


TEL 015-572-2322
FAX 015-572-4213



金光教十勝教会
〒083-0001
池田町旭町1-9

Facebook「金光教十勝教会」
<http://kontoka..webcrow.jp>

十勝教会 だより 88



Facebook



教会 HP (PC)



金光教公式HP

だいぶ後になって教祖様は当時のことを振り返り、「難儀な氏子を助けるため取次（神と氏子を取り結ぶ）に専念してくれ」と神様から頼まれたと書き残しています。



写真 - 立教聖場
教祖様のお広前（復元）

旧暦・安政六年十月二十一日、新暦では十一月十五日、のちに「生神金光大神」のご神号を授かる赤沢文治さんは、天地金乃神様の願いを受け、家業である農業をやめ、神様の御用に専念されることとなります。

巻頭言・生神金光大神大祭を迎えて
「神も助かり氏子も立ちゆく」

金光教十勝教会

また天地金乃神様も「人間は、神のおかげを知らない。すなわち神が都合を整えた天地の中で、神が整えたいのちの働きによって生かされながらもそのことを知らず、人間勝手の生き方を続けてきたことで難儀を受けている。だから願う者には生神金光大神の取次を通じ、信心して神のおかげの中に生かされていることを理解させ、あらためて神のおかげを授け助ける。氏子ありての神、神ありての氏子、上下立つようにする。」と教祖に神様のご用に専念するよう頼んだ理由を明らかにしています。

以来、教祖様は一日中お広前にお座りになり、願い事や難儀を抱えた方がお参りになるたび、その方々の願いを聞き、ご祈念をされ神様に願い、人間は神様のおかげの中に生かされている

ということを話して聞かせ、多くの方が得心しておかげ受けてきました。

このように教祖様は天地金乃神様の願いを受け、私たち人間が助かる道をお諭しくださって来たのですが、ところがその神様の願いには「氏子ありての神、神ありての氏子、上下立つようにする。」という目的が込められていたことを忘れてはいけません。

○
教祖様に難儀な氏子を助けるように頼んだのには、「氏子ありての神、神ありての氏子、上下立つようにする」ためだったのだと神様が言っています。では、「氏子ありての神、神ありての氏子、上下立つ」とは一体なんなのでしょうか？

教祖様はこの一文をもっと端的に「神も助かり氏子も立ち行く」という言葉に置き換えられました。そう、教祖様いわく、金光教の信心とは、人が助かるためのものだけでは無く、神様も助かるための信心だということです。

ここで大事なことは「神も助かり」

と「氏子も立ち行く」がワンセットになっっていることです。「神だけが助かる」でもなく「氏子だけが立ち行く」のでもありません。「神も人も共に助かる」のです。それが我々の信心だと教祖様は言っているわけです。

○
「神も助かる」とはなかなか私たちには想像しがたいのですが、教祖様のお弟子さんの一人が晩年、「信心ができたというのは、自分の願ったことが無理なくできることだ」と言っています。自分の願いが叶ったと思うことは意外と多いかもしれません。でもそれは自分一人が「願いが叶った」と思っているだけかもしれないのです。自分には良かったけど周囲の人に迷惑をかけていたり、無理をして人に都合を付けてもらっていたりしていないでしょうか？本当に無理なくできていますか？他の人にしわ寄せが行くこと無くできるとき、本当に願いが叶ったといえるでしょうか。

同じように、神様のご都合を知らぬ

○
中で、人間の都合だけで何でもしようとして、結果神様のご都合に叶わず、神様と人との間に齟齬そごが生まれていきます。私たちにとって都合のいいことが、神様にしわ寄せとなつて、結果それが人間の難儀の元になっています。

○
せっかく教祖様が信心しておかげをいただくポイントは「神も助かり氏子もたちゆく」だと教えてくれているのですから、まず手始めに、困ったことや願いごとがあった時、「これこれこういう困ったこと、願いごとがあります。どうぞおかげを御授けください」と神様に願うのでは無く、「これこれこういう困ったこと、お願いごとがあります。どうぞまず神様が助かるおかげをお授け下さい。そして私も立ち行くくようお願いします」と願って、自分だけが助かるのではなく、神様にしわ寄せが行かないようにお願いの仕方を変えてみてはいかがでしょうか。

令和二年十一月十五日

教会日誌 令和2年9月1日から10月31日まで

9月1日 池田町災害時指定避難所点検。

9月6日 音更町、M家、感謝祭・式年霊祭。

9月16日 教会長、滝上教会の教会長兼務を拝命。

9月17日 道東地区教会連合会臨時役員会、帯広教会。教会長出席。秋の大祭交流参拝の中止が決まる。

9月18日 教会総代会。大祭の持ち方について。記念祭の準備について。滝上教会の合併について。

9月20日 帯広市、S家、葬儀式。21日まで。

9月22日 秋季霊祭。

10月3日 帯広市、M家、感謝祭。

10月4日 本部生神金光大神大祭、教会長参拝。

10月6日 浦河町、T家、二柱霊神式年祭。

10月10日 黒忠教会・秋本志紀子先生来道、滝上教会参拝。

10月21日 札幌市、I家、式年祭。



10月25日

網走教会大祭。教会長参列、みよ子先生教話御用。



写真 秋季霊祭

春の霊祭はコロナウイルス感染症の影響もあり、祭典後のお茶会(直会)が出来ませんでした。秋の霊祭では、都合のつく方に残っていただき、霊祭恒例のおはぎをいただきました。

10月29日 滝上教会・M家墓前祭。

10月30日 滝上教会生神金光大神大祭ならびに教会閉鎖奉告祭。教会長祭主奉仕、千鶴子先生教話御用。

三浦総代夫妻代表参拝。



上右・本部境内
上左・本部祭場
下・教祖奥城（お墓）

写真 本部ご大祭

参拝者数の制限や境内には検温所、参拝者の連絡先の記入所が設けられるなど本部のご大祭もコロナウイルス感染症対策に気を遣いながら奉仕されました。

上・滝上教会正面

下・教会の向かいを流れる渚滑川（蛟竜の滝）

写真 滝上教会



金光開拓団を率いた滝上教会の初代教会長岡本政道先生は、滝上開拓の先駆者であり滝上町長を勤められました。

写真 本部ご大祭

昭和37年に設立された金光教滝上教会ですが、本年をもって十勝教会と合併、教会を閉鎖することになり、最後の大会が仕えられました。滝上町にはあらたに滝上礼拝所（仮称）が設けられます。



上・滝上教会お広前
下・祭典後の教話

お 知 ら せ**金光教十勝教会が金光教滝上教会を合併することについて**

この度、宗教法人「金光教十勝教会」が宗教法人「金光教滝上教会」を合併することになりましたのでお知らせいたします。

これからの祭典行事予定**★薫別講社布教 100 年記念祭 12月5日（土） 11時**

薫別講社（陸別町）が大譽地講社（足寄町）時代の活動とあわせついに100年を迎えました。長きにわたり講社を支えてくださった神御はかりにお礼を申し、講社を守られてきた先人のみな様のお徳を称え薫別講社の100年記念祭を執り行います。

薫別講社在籍以外の方で参拝を希望される方は教会までお知らせください。

○越 年 感 謝 祭 12月31日（火） 13時30分**記念祭奉迎委員会から****★記念祭の役割分担について**

来年執り行う記念祭の役割分担について、年内にみな様へご案内をさせていただきます。係に当たった方はご協力よろしく願いいたします。